

まんが王国・土佐推進協議会 平成28年度第1回総会（概要）

日 時：平成28年9月30日（金）15:00～17:00

場 所：高知会館 飛鳥の間

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員20名（うち代理出席3名）

監事2名、オブザーバー1名（代理出席）

（1）議 事

事務局から次の議案について説明があり、承認された。

第1号議案 平成27年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告及び収支決算

（2）報告事項

事務局から次の報告事項について報告があり、承認された。

第1号報告 平成28年度まんが王国・土佐推進協議会収支予算

第2号報告 平成28年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進及びコンテンツ産業振興の取組について

<まんが王国関係>

- ・第25回まんが甲子園(平成28年度全国高等学校漫画選手権大会)の実施について
- ・ニコニコ超会議2016への出展について
- ・ワンダーフェスティバルへの出展について
- ・高知家まるごと海外情報発信事業について
- ・まんが王国・土佐ポータルサイトの運用について
- ・まんが教室の実施状況について
- ・まんがを活かしたコンテンツ創造教育の推進について

<コンテンツ産業関係>

- ・コンテンツ企業の立地促進について
- ・土佐まるごとビジネスアカデミー2016「アプリ開発人材育成講座〈基礎編〉」及び「イラストビジネス基礎講座」の開催概要について
- ・土佐まるごとビジネスアカデミー2016「アプリ開発人材育成講座〈応用編〉」の実施について

（3）協議事項

次の協議事項について、事務局からの説明、まんが王国振興部会及びコンテンツ産業振興部会の両部会長からの提案の後、意見交換が行われた。

第1号協議 全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐について

第2号協議 平成29年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進及びコンテンツ産業振興の取組について

第1号協議 「全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐」について

（意見なし）

第2号協議 平成29年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進及びコンテンツ産業振興の取組について

【A委員】

- 開会式で演奏したブラスバンド部の生徒が、文化系の部活動でこれだけ豪華な大会は見たことがないと大変喜んでいて。まんが甲子園をまんがを描く生徒以外の生徒にもPRする良い機会となった。
- まんが甲子園の本選大会は、今は賞をとることを目的に生徒が頑張るといふ、公平公正なコンペティションの場になっている。その場に出張編集部やスカウトマンが入ってきて、ただでさえタイトなスケジュールの中に、さらにコンテンツ産業の人材確保等の他の要素を入れすぎると、コンペ以外のことが目的になってしまうのではないかと懸念がある。高校生に将来の進路の選択肢を示すといふことは非常に良いことなので、例えば、まんが甲子園の本選大会の前に、高校生のボランティアスタッフ等を対象としてコンテンツ産業のPRを行うといふ方法もあるのではないかとと思う。
- コンテンツ創造教育については、コンテンツを作ることと同時に、生徒の前で使いこなしていく指導者の育成にも併せて取り組んでいただきたいと思います。

【吉村部会長】

- まんがやイラストが好きな子供たちに、数少ない漫画家だけではなく、まんがやイラストにまつわる様々な職業があるといふ選択肢を提示してあげられるようにしたいと思う。

【事務局長】

- コンテンツ産業のPRについては、まんが甲子園の場を使うことを念頭に置いていたが、まんが甲子園の前に高校生にPRすることについても1つの良い方法であり検討させていただきたい。指導者の育成については、教育委員会と協議させていただきたい。

【尾崎会長】

- まんが甲子園の狙いは、まんがや関連の道を志す若者を応援しようといふことが大きな柱となっている。まんが甲子園において賞を狙って公平公正に競技をすることと、出張編集部やスカウトマンに対しても子どもたちがフェアに競争してチャンスを掴み取るということにもチャレンジしてもらいたいと思う。

【B委員】

- 公平公正といふことについて、審査員の立場からすると、人間が選考する以上は偏りがあるのは仕方がないが、なぜそういう選考結果になったのかといふ問いに対して、一定時間が経過した後でも、きちんと答えられる根拠が必要だといふことを考えている。そういうことをカバーできるのはデータだと思ふし、その意味で数ある漫画賞の中で25年分の作品をデータベース化できているのはまんが甲子園だけであり、これは高知県の宝物だと思ふ。今後は、これを生かして、例えば、誰もが納得できるような教材を作り、それをまんが甲子園の成果として高知県が胸を張って言える、全国に波及していくようなことができれば、本物になると思ふ。

【C委員】

- まんが甲子園の公平公正なコンペの場に影響があるかどうかといふ点では、300～400校の中から予選を突破しなければならぬので、スカウトマンを狙って予選を突破できるというものでもないだろうし、本選も同様だろうと思ふ。また、スカウトマンの目にとまったからといふ漫画家になれるかといふ言えばさらに厳しいのが現実なので、心配ないのではないかとと思う。
- むしろ、出場する高校生には、もっと出張編集部やスカウトマンの目にとまるよう意識してもらいたいと思ふ。

【尾崎会長】

- 本県におけるコンテンツ産業の振興においてボトルネックになる可能性があることは人材の確保であり、県としても土佐MBAにおける人材育成を強化している。プログラミングが当たり前のようにできる人材を育成していくことを真剣に考えていかなければならない時期になっていると思う。こうしたことを進めていくためには指導者が重要であり、チーム学校として、教員も学んでもらえるような取組をスタートしていくことができればと思う。指導者の育成に関しては、教育委員会と相談しながら進めさせていただければと思う。

【D委員】

- 高知県にとってまんがは財産であり、観光にとって最高の情報発信の方法になる。徳島県では、阿波踊りのポスターに美少女キャラを使ってそのポスターが人気になっていると聞いている。来年3月からの幕末維新博では、2年間の取組も大事だが、その後も残っていく財産にしていくことが本当の狙いであり、そのためには、地域の人々が地域のことを熱く語るようにしていくことが大事だと思うので、そういう点でまんがが何か役に立たないかと思う。
- サイクリングに関しては、現在、40 くらいのコースづくりに取り組んでおり、サイクリングを目的とした観光客の増加も狙っている。サイクリングまんがの漫画家さんがお越しになる際には、観光サイドとしても応援させていただきたいと思う。

【E委員】

- 起業や創業に関しては、産業競争力強化法の中で、各市町村の創業支援事業計画を国が認定し、その計画にある認定事業者に対して補助金が出せる。まんが事業者の立地は、どこの市町村でも取り組まれていないし、創業支援の事業費も十分に確保しているので、是非、取組を強化していただきたいと思う。
- 人材育成に関しては、IPA（独立行政法人情報処理推進機構）が全国の中学生を対象に行ったプログラミング大会が高い評価を得た。高知工専もIT人材の育成に大きく舵を切って、IT人材の発掘を高知県内にとどまらず全国を対象に行っていくということを言っていたので、コンテンツ産業を本当に育成していくのであれば、そういうところとの連携等も考えていくことが必要だと思う。

【吉村部会長】

- コンテンツと言えば若者が中心というイメージだが、高齢化社会の中で、例えば、彫刻や絵の得意なサブカルチャー的な高齢者にもものづくりの流れ等を少し教えるだけで熟練の能力を発揮できる可能性があるのではないかと。そうなれば、企業的にも賃金水準を抑えられるし、生活するためにお金が必要、やる気のある高齢者が高知県に集まるといったことも考えられると思う。

【武市部会長】

- シルバー人材の活躍は可能性はあると思うが、ビジネスにはまずそれを事業化できる、旗を振る人がどうしても必要。そういう意味で、まんがを軸としたコンテンツ、コンテンツに関連するIT系を中心として、可能性の高い産業で成果をあげていくことが好循環につながると考えており、それに優先的に取り組んでいるところ。

【尾崎会長】

- 県内で起業や創業を進めていくには、コンテンツ関連で新しい業を起こす人をどれだけ導き出していけるかということが大きなポイントになる。先日、人工知能の事業連携の計画が立ち上げられたように、コンテンツ企業の集積が進みつつある。さらに今年度は、藤井委員のご協力のもとでIoT推進ラボも立ち上げ、課題を抱える現場と企業とのマッチングの取組も推進することとしている。新たな業を立ち上げていくためには、コンテンツビジネス起業研究会やIoT推進ラボなど、関連する人たちが集まって協力・協業する場をたくさん作って

いくことが重要だと考えている。

- 起業の推進、IoTの推進、コンテンツ産業の推進の取組が連携し合って、具体的なビジネスとしては、IoT推進ラボやコンテンツビジネス起業研究会等の場で成し遂げられることになる。そういった場に、参加する人を増やすことに取り組んでいかなければならないし、そういう中でシルバー人材もリーダーになったりすることがあるのではないかと思う。

【F委員】

- 大豊町では、地球を冷やすという意味のクールベジタブルの栽培に取り組んでおり、これに高知大学の学生と連携してキャラクターを付ける取組を進めている。キャラクターの公募には海外からも応募があると聞いており、野菜とオタクキャラのマッチングといった取組の中に、今後の取組のヒントがあるのではないかと思う。

【尾崎会長】

- 大豊町のような中山間地域の不便、不都合を解消するためにIoTやコンテンツ産業の活躍する余地があると考えている。IoT関係では、工場の生産性向上、次世代型の施設園芸システムの更なる向上、鳥獣被害対策の3つを事業として立ち上げる取組を始めている。鳥獣被害対策では、人の少ない中山間地域だからこそIoT技術を使って鹿を駆除することができるのではないかと思うので、協力して取り組んでいきたい。

【G委員】

- 「Life is tech!」（ライフイズテック）というところが面白い人材教育を行っている。大学生が幼稚園児にプログラミングを教える、シルバー世代がサラリーマンに教える、高校生が幼稚園児に教える。そして、それぞれ教えている人が、他の教えている人の教え方から学ぶというようなサークル的な教育方法を行っており、これが今、世界中のIT教育で流行り始めている。こういったことを、IoTを含めた起業の方と一次産業の方を含めたみんなでやってはどうかと考えている。
- これをまんがに例えると、LINEは若者たちがみんな使っていて、そのスタンプを作ろうと子どもたちに言うと、作り始める。スタンプは1枚のまんがであり、みんなでスタンプを作ってそれをビジネスにする。できるかわからないが、スタンプをまんが甲子園の場で売ってみるといったことをやって、つながっていくというやり方もあると思う。まんが甲子園でこういうことを学んでいく学生達が集まってコンペティションをする。その次に、ビジネスに移っていく際にアウトプットとして試しに何かを入れてみる、といった流れが出てくるとすごいことになると思うし、IoTにつながっていく。

【尾崎会長】

- まんが甲子園の場でコンテンツ産業のPRといったことも考えており、どのような工夫ができるか考えていきたい。

【H委員代理】

- 企業の抱えている課題は起業推進室等の取組で解決していこうという仕組みができたが、県庁内の各部署が課題をそれぞれ抱えているのではないかと思う。解決のために課題を全部出し合う中で、普段は関係のなかった部署から解決策が出てくるかもしれない。
- まんが甲子園や漫画家大会議は大盛況で続けていったらと思う。それに加えて、高知には素晴らしい漫画家がたくさんおりポータルサイトで紹介されているが、他にも、(切り絵まんがの)山北美紗子さんという作家もいる。情報とか歴史を楽しむ余裕のある旅行に来てくれるような中高年の方向けの作家に絞って紹介する、それをアーカイブとして残すといった事業も個人的には面白いのではないかと思う。

【I委員】

- コンテンツ部会に参加した感想として、実際にビジネス化をしていくため、昨年から企業の後継者や若手を集めた勉強会を開いているが、そこで実際にプレゼンテーションをしてもらい、昨年は2件の発注につながった。今年も継続しており、営業スキル等課題と感じたことが、今年は非常にレベルが高くなったと感じている。
- 当行でも、開発した商品のチラシやお客様に渡す楯のデザイン、営業マン向けの研修資料のまんが化など、実際にビジネスとしてやってもらったが、非常に力があって面白いと感じており、ここをもう少しお手伝いできれば、ちゃんとビジネスになっていくと思う。
- 監督官庁の金融機関への指導も変わり、起業支援が銀行の重要な業務として位置付けられてきた。当行でも会計士やコンサルタントなどの行員を当部に配置し、クラウドファンディングなどのサービスも準備が出来たので、起業推進室と連携して進めていきたい。
- 観光ファンドで物部川流域をパイロット地域として取り組んでいるが、非常に魅力的だが惜しいものも多いというのが正直な感想。龍河洞を通して三宝山に行ったときには、「これってスーパーマリオだよな。洞窟抜けてお城に出て」という話になった。観光等の分野では、コンテンツ関係の力を発揮していただけるのではないかと期待しており、うまく連携してお手伝いできればと考えている。

【尾崎会長】

- 庁内の課題を掘り起して、それを関連事業者に見てもらいマッチングするような機会は、今、南海トラフ地震対策に絡んで防災産業を支援するといったこともやっているように、過疎地の医療や見守りといったことも含めて、高知ならではの課題をみてもらい課題解決につなげていく、そういう機会をつくっていきたい。その際には、銀行に入っていただくと事業者の目の色が変わるので、ぜひ参加をお願いしたい。

【武市部会長】

- コンテンツ産業部会には、2行に参加していただき、起業研究会でも、個別案件の事業計画の磨き上げ等についても指導をいただいている。ヒト・モノ・カネのカネの部分は非常に重要であり、2行には大変協力いただいている
- ビジネスマッチングについては、デザイナーやイラストレーターの活用、そして営業ツールをまんが化するという取組も進んでおり、こうした方向で両行とも話を進めており、取組が進んできていると思う。
- 今年度、起業推進室ができて、そこを中心に地元金融機関も含めそれぞれの部署が連携して取り組む体制ができ、今後は成果を出すだけなのでどんどん旗を振っていただきたいし、起業したい人をどんどん引き上げる取組を進めていっていただきたい。

<以上>